
玉野市こども・若者計画（仮称）に関する
グループインタビュー調査 報告書

令和7（2025）年9月
岡山県 玉野市

～ 目 次 ～

I	調査の概要	1
II	調査結果（発言要旨）	2
	【1】日常生活における悩みや不安について	2
	1 進路や就職に関する不安	2
	2 自分の性格や人間関係についての悩み	3
	3 生活環境や地域についての悩み	3
	4 人口減少による将来への不安	3
	5 自身の将来や老後への漠然とした不安	3
	【2】居心地の良い場所（居場所イメージ）について	4
	1 交流できる場所	4
	2 図書館	4
	3 自宅	4
	4 その他の落ち着ける場所や環境	5
	5 居場所で感じること、居場所に求められる安心感	5
	6 市の施策とも関連する視点	5
	【3】これからの玉野市のまちづくりについて	6
	1 ボランティア活動への参加	6
	2 地域への貢献と人とのつながり意識	7
	3 移住や定住について	7
	4 子育て支援について	8
	【4】玉野市へ意見を伝えやすくするために	9
	1 意見の発信手段について	9
	2 フィードバックへの期待	9

I 調査の概要

【 調査の目的 】

本調査は「玉野市こども・若者計画」の策定に当たって、高校生、大学生を含む若い年齢層を対象に、ふだんの生活状況や意見、要望等について生の声を聴き、施策を検討する上での基礎資料とすることを目的として実施した。

【 グループインタビュー調査とは 】

- ・ グループインタビュー調査とは、座談会形式の小集団面接調査のこと。
- ・ 具体的には、1グループ6名程度の方を会場に呼集し、司会者（モデレーター）の進行によって様々な意見やアイデアを聴取する「定性的な」調査手法の一つである。アンケート調査のように、大量のサンプルを確保して集計するものではなく、あくまでも政策上のヒントやキーワードなど意識的側面を探る調査である。
- ・ 司会者が話題を提示し、対象者がグループで話し合うことで、活発な意見や有益なアイデアを聴取することができる。

【 グループ属性（対象者） 】

グループ名	対象	開催日時	開催場所
高校生グループ	玉野市内の高等学校に在籍している高校生（7名）	令和7（2025）年 8月8日（金）10:00～	玉野市役所 庁舎
大学生グループ	玉野市内に在住している大学生（6名）	令和7（2025）年 8月6日（水）13:00～	玉野市総合 医療専門学校
若者グループ	市内在住の18歳～39歳の若年層（大学生を除く。）（6名）	令和7（2025）年 8月6日（水）18:30～	玉野市役所 庁舎

【 主な聴取内容 】

- ・ 自己紹介（所属先や学年、自己PR等）
- ・ 日常生活における悩みや不安について
- ・ 居心地の良い場所（居場所イメージ）について
- ・ これからの玉野市のまちづくりについて

Ⅱ 調査結果（発言要旨）

【1】日常生活における悩みや不安について

回答要旨

- ・ 「玉野市に残りたいが、将来の雇用や進路といった不透明な心配がある」や「優柔不断で人に頼れないといった自分の性格が、就職や進学に影響するかもしれないという不安がある」といった悩みや不安を抱えている。
- ・ 就職や進路、生活環境、人間関係などへの不安を抱えており、安心して相談できる場の確保が課題となっている。
- ・ 人口減少に伴う地域や会社の存続に対する不安、生活利便性の低下、将来や老後への漠然とした不安が示されている。

1 進路や就職に関する不安

【高校生グループ】

- ・ 玉野市内で自分に合う仕事があるのか分からない。
- ・ 玉野市の人口減少や求人が減少していることに不安がある。塩などの製造業を希望しているが、将来性に疑問をもっている。
- ・ 玉野市で暮らしたいが、市外を知らないことに「本当にいいのか」という不安と葛藤している。
- ・ 地域活性化を目標としているが、職業として具体化できない。大学生活になじめるか不安を感じている。
- ・ 理系進学と保育士志望の間で揺れている。保育士を志望したのは、家庭で0～1歳児を育児した経験も影響している。
- ・ 月25万円程度の安定した収入による安心した生活を望んでいる。
- ・ 具体的な将来イメージがまだないこと。

【大学生グループ】

- ・ 家族や地元を離れること、また災害時の家族の安否が心配で、できれば地元で働きたい。
- ・ 保健師や作業療法士などの職種を目指しているが、働くイメージや進路選択に不安を感じている。希望の土地で実習や就職先が見つからず悩んでいる。
- ・ 理学療法士志望など将来の方向性はあるが、就職先の選択や地元残留への思い、地元に関わる職が少ないことへの不安がある。

2 自分の性格や人間関係についての悩み

【高校生グループ】

- ・ 周囲の目を気にしやすく、相手に嫌われたくない。
- ・ 初対面や親しい人への気の遣い方で不安を感じる。
- ・ 人に頼れず、プライドが高いと思われる。感情が高まると涙が出ることもある。
- ・ 我慢する性格で、悩みを人に打ち明けられない。
- ・ 優柔不断で後悔することが多い。
- ・ 二択の決断に弱く迷いやすい。
- ・ 人前で話すのが苦手で、志望動機は考えられるが勇気が出ない。

【大学生グループ】

- ・ 悩みは基本的に友人や家族に相談しているが、気軽に相談できる大人や環境が少ない。
- ・ 自分に自信を持てず、本音を言い難い、周囲の期待がプレッシャーになると感じている。

3 生活環境や地域についての悩み

【大学生グループ】

- ・ 学生が集まれる場が身近にない。
- ・ 地元と比べて騒音など環境の違いへの不安がある。
- ・ 食料品の購入や移動などで生活の不便さを感じている。

【若者グループ】

- ・ 買物できる場所が減少し、街の過疎化と地域格差が悪化していることに不安がある。
- ・ 車がないと移動が困難で「子どもが自力で行けるスーパーやコンビニエンスストアがない」「習い事、塾の不足で遠くまで通わざるを得ない」といった生活利便性に対する課題も挙げられた。

4 人口減少による将来への不安

【若者グループ】

- ・ 人口減少が自身の雇用や会社の経営、日常生活全体に影響するという切実な不安がある。
- ・ 人口減少を背景として、法人、個人の顧客が減ることで会社の存続自体が危機にさらされ、結果として従業員や家族の生活にも波及するという不安がある。
- ・ 市の人口減少は子どもの減少とも直結し、学校の統廃合や転校など子どもの精神的負担になることへの不安もある。

5 自身の将来や老後への漠然とした不安

【若者グループ】

- ・ ニュースや日々の生活から「将来自分の目標に到達できるか」「このまま進んで安心して暮らせるのか」など、将来や老後に対する漠然とした不安も感じている。

【2】居心地の良い場所（居場所イメージ）について

回答要旨
・ 「静かに落ち着ける図書館」を自身の居心地の良い場所の一つとして挙げている。このほかの施設等については「飲食や交流ができない不便さ」「時間帯による制限」「同世代とつながる場の不足」を課題と感じている。 ・ 「自身を認めてもらえる温かさ」「自分のペースや自身を持つ世界観を保つことができる場所」「人との適度な距離感、音、他人の気配を感じる場所」など、多様な「安心できる居場所」を求め、それぞれの人権や尊厳、多様性が大切にされている。 ・ 「自由で気兼ねなく過ごせる自宅」と「適度に他者の気配がある場所」があり、特に子育て世代は「子どもの安全と見守りができる環境」が心の余裕を生むと感じている。

1 交流できる場所

【高校生グループ】

- ・ 学校は友達がいって安心感があるが、学校以外で同世代と交流できる場が玉野市には少ない。
- ・ マクドナルドや図書館を利用するが、本来の目的とずれている。気軽に雑談や勉強ができるフリースペースや広場のような場所がほしい。
- ・ 19～21時に利用できる場がほしい。
- ・ 既存のコワーキングスペースは17時で閉まってしまう。

【大学生グループ】

- ・ 「たまの・港フェスティバル」などのイベントは「楽しく交流できる新鮮な場」として印象付けられている。
- ・ メンタルサポーター活動に参加している。精神疾患がある人への寄り添いや学生との会話などが生きがいにつながり、学生自身もこの実習で仕事への将来像や学びを得ている。
- ・ 子ども食堂は、地域住民との交流や子どもの居場所として大切な役割を果たし、存在価値を認め合える場になっている。

2 図書館

【高校生グループ】

- ・ 図書館は静かで落ち着く、勉強も読書もしやすい。
- ・ 図書館では「飲食できない」不便さがあるので、イートインや休憩スペースが欲しい。

3 自宅

【高校生グループ】

- ・ 自分一人の空間として落ち着ける。

4 その他の落ち着ける場所や環境

【 高校生グループ 】

- ・ 車の中、美しい景色、海岸などでも安心できると感じる人がいる。
- ・ 公園もあるが、夏は暑すぎるので、図書館を「避暑地」のように使う人もいる。

5 居場所で感じること、居場所に求められる安心感

【 大学生グループ 】

- ・ 自宅（地元）が最も落ち着くと多くの参加者が回答している。理由は「周囲の人に認められる存在感」「あたたかみ」「つながりの強さ」などが挙げられる。
- ・ 一人暮らしであることやカフェ、海、図書館なども、自分のペースでいられる場所（パーソナルスペース）として挙げられた。
- ・ 自然や動物の近くで過ごすことやY o u T u b eの鑑賞、音楽による「心地よい音」「他人の気配」など、自分がコントロールできる環境が挙げられた。
- ・ 実家では、家族や友人との深い理解をはじめ、程よい距離感が「安心できる理由」として重視されていた。
- ・ 趣味の時間や一人でいる時間、友人と話しながら一緒に食事することも「居場所」となり、必要以上に干渉されないパーソナルスペースが必要という意見もあった。

【 若者グループ 】

- ・ 「他者の干渉がなく自由だから」「家族がいても気兼ねなく落ち着く」といった理由で自宅を最も安心できる居場所と感じている。
- ・ 喫茶店や公園、ネットカフェのように「程よく他人の気配や会話があり、自分で空間をコントロールできる場所」も若者が求める居場所として挙げられた。
- ・ 子どもを安心して遊ばせることができる場所や子育て支援が充実している環境への期待も示された。
- ・ 子育て世代では「家にいるときは子どもが常に一緒にいて一人の時間が少ない」「子どもの安全に目が届く距離や環境が心の余裕につながる」という話もあった。
- ・ 知人や友人の存在が心の支えとなり、地域でのつながりの重要性も認識されている。

6 市の施策とも関連する視点

【 若者グループ 】

- ・ 「こども・若者計画」の人権尊重や居場所づくりの考え方は、少子化対策としても、子育て環境の充実が市の魅力の向上につながるという意見が挙げられた。

【3】これからの玉野市のまちづくりについて

回答要旨

- ・ 趣味やボランティア活動、課題研究や部活動を通して「自分の成長」「地域とのつながり」「社会貢献への喜び」「責任の重さや大変さ」などを経験し、それが人生や進路にも良い影響を与えていると感じている。
- ・ 部活動は「学校中心」から「地域主体」へと移行し、地域コミュニティの活性化や多様な交流の場として重要な役割を担っている。
- ・ 地域に学習ができるスペースや仲間と集まることができるスペースが求められているとともに、住みやすさや人的な交流、公共交通の利便性向上、観光の活性化などが求められている。
- ・ 日常の困りごとや希望を行政に気軽に伝えることができる、ネットの窓口や情報発信の工夫が求められている。
- ・ 「人とのつながりはボランティアから」「他者を思いやり、偏見をもたない」「現場での経験が実務や福祉施策に生かせる」「仕組みを支える人の存在」「時代に合った柔軟な思考や辞める勇気」「相手の話を細かく聞くことの大切さ」など、多様な価値観や視点の重要性が挙げられた。

1 ボランティア活動への参加

【高校生グループ】

- ・ ボランティア活動には自主的に参加している場合が多く、学校での募集や家族の紹介、仲間の誘い、個人の意志で始めた活動が主となっている。
- ・ ボランティア活動に参加することにより、地域の人との交流や支え合いを感じることが多く、活動後に達成感やうれしさ、感動を覚える。
- ・ ボランティア活動を通して自分自身の成長や進路への影響、自分にできる社会への貢献、周囲と共感できる体験が強く印象に残っている。

【若者グループ】

- ・ 会社や個人で清掃やイベントの運営、販売支援、保育園ボランティアなどの地域活動に幅広く参加している。
- ・ 学生時代に気軽に参加した地域活動が、社会への関心や自分の価値観を広げるきっかけになっている。
- ・ 福祉や障害のある人の施設での体験を通して「偏見の解消」「人は皆同じ」ということに気づき、実際に現場で役立つことを学んだ。
- ・ サッカー大会の運営などスポーツ分野や福祉に関連する政策においても、陰で支える人や支え合いの仕組みの重要性を学び、効率的な方法を模索する意見も出た。

2 地域への貢献と人とのつながり意識

【高校生グループ】

- ・ 地域への貢献や人と人とのつながり、ふだん接しない世代と関わる機会を通して新しい発見があり、これが今後の進路や夢を考えるきっかけになっている。
- ・ 「自分が関わることで誰かが喜ぶ」「世代を超えた交流ができる」「地域が少しでもきれいになるとうれしい」など、人との関わりや地域貢献が重視されている。
- ・ 科学やスポーツ、演劇など学内における部活動も幅広く行われている。
- ・ 小学生が映画を作る企画を手伝うボランティアに参加した。演劇部の経験を通して、新たな企画を思いつくことや気付きがあり、自身の意識や考え方に良い影響を受けた。

【大学生グループ】

- ・ 地域コミュニティや交流の機会の充実、住みやすさ、暮らしやすさへの関心が高く、学校以外で勉強できるスペースや集まれる学習スペースがほしいという意見があった。
- ・ 外国人観光客が直島にしか興味を持たず、宇野を素通りしてしまうので、宇野エリアの観光を活性化することへの要望が挙げられた。
- ・ バスの本数やタクシーの使い勝手など、交通機関の利便性の改善（特に学生や高齢者の通院や移動）が挙げられた。
- ・ 若者としては電話よりもLINEやホームページ、チャットなどネットで気軽に相談できる窓口がほしいという意見が多かった。
- ・ 既存のSNSでの相談窓口は「知られていない」「周知が足りない」という指摘があり、情報発信や周知方法の改善も課題となっている。
- ・ ネットでの相談へのハードルは高くはないと感じる一方で、タイムリーな対応や個別対応がまだできていないという意見があった。

3 移住や定住について

【若者グループ】

- ・ 若い世代が通勤距離を考えると玉野市に住む方が便利だが、賃貸物件の不足など住まいの選択肢の少なさが大きな障壁となっている。
- ・ 宇野周辺を中心に賃貸物件が非常に少なく、物件があっても人気で埋まってしまい、他のエリアに住むことになり交通の不便さが問題となっている。
- ・ 買物の環境の不便さや公共交通機関の少なさも課題で、車がないと生活や通勤が厳しい現状がある。
- ・ 空き家や戸建ての活用、若者の雇用の創出や地元で働きたいと思える環境づくりが必要とされている。
- ・ 宴会や観光客の受入れ施設の不足も指摘され、観光資源の活用とインフラの整備が求められている。
- ・ 宇野以外の地域では飲食店などの生活利便施設が少なく、子育て支援や医療施設の充実も移住、定住の「鍵」として挙げられた。

4 子育て支援について

【若者グループ】

- ・ 学童保育の終了時間が18時となっている。働く親には時間がぎりぎり負担になっており、延長の希望がある。
- ・ 他の地域の民間の支援施設が参考になるという声もあった。

【4】玉野市へ意見を伝えやすくするために

回答要旨
・ 意見表明にアンケートやSNS、チャットの活用とともに、手段の多様化とフィードバックの充実が重要、という意見が挙げられた。

1 意見の発信手段について

【若者グループ】

- ・ 紙のアンケートが届くと意見を書きやすく、有り難いと感じる。自分から発信するより受け身で答える人も多い。
- ・ SNSや匿名メールも意見表明の手段として挙げられているが、対面派の人もいて一律ではない。
- ・ SNSへの否定的な感情やクレームの書き込みには慎重になるべきとの意見もある。
- ・ LINEなどチャット形式は反応があってよいとの意見もあるが、情報の周知や利用はまだ十分ではない。

2 フィードバックへの期待

【若者グループ】

- ・ アンケートや意見の集計結果はホームページで公開されることが多いが、それらを自分から積極的に見に行く人は少ない。
- ・ メールでの直接回答やフィードバックがあれば、関心や継続的な参加につながるとの意見が挙げられた。
- ・ グループインタビューなどでは、どのように意見が反映されたか分かりやすく示してほしい。

玉野市こども・若者計画（仮称）に関する
グループインタビュー調査 報告書

発 行／令和 7（2025）年 9 月
発 行 者／玉野市 健康福祉部 こどもみらい課
〒706-8510 岡山県玉野市宇野 1 丁目 27 番 1 号
電 話（0863）32-5554
メー ル kodomo@city.tamano.lg.jp
